(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3556126号
(P3556126)
(45)発行日　平成16年8月18日(2004.8.18)　(24)登録日　平成16年5月21日(2004.5.21)

(51)Int.Cl.[7]　F I
B65D 85/68　B65D 85/68 L

請求項の数 3　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平11-181430
(22)出願日　平成11年6月28日(1999.6.28)
(65)公開番号　特開2001-10692(P2001-10692A)
(43)公開日　平成13年1月16日(2001.1.16)
審査請求日　平成13年12月5日(2001.12.5)

(73)特許権者　000002473
象印マホービン株式会社
大阪府大阪市北区天満１丁目２０番５号
(74)代理人　100103654
弁理士　藤田　邦彦
(74)代理人　100087996
弁理士　福田　進
(72)発明者　大島　三三夫
大阪府大阪市北区天満１丁目２０番５号象印マホービン株式会社内
(72)発明者　松原　俊一
大阪府大阪市北区天満１丁目２０番５号象印マホービン株式会社内

審査官　石田　宏之

最終頁に続く

(54)【発明の名称】電気調理器用収納ケース

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
合成樹脂材で殻状に形成した身容器と蓋とで構成した電気調理器用収納ケースにおいて、身容器に電気調理器を収納して蓋をロックするロック手段を設け、前記ケースの一部に把手を、他部に脚部を形成する電気調理器用収納ケースにおいて、
身容器は、電気調理器を平面的に置く姿勢で収容する事ができる殻状に、蓋は電気調理器の上面を覆う殻状にそれぞれ形成し、把手の対向位置に脚部を形成するとともに、
身容器の底面に脚部を突出形成し、該身容器の脚部に電気調理器の脚部が嵌まり込んで身容器と電気調理器の位置決めを行うとともに、殻状の身容器の内部にリブを立設し、該リブに対して収容した電気調理器がリブの面方向に当接して緩衝的に妄動を防止することを特徴とする電気調理器用収納ケース。
【請求項２】
内部に立設したリブと殻状の身容器の間に形成される空間を、コードなどの小物類の収納空間としてなる請求項１記載の電気調理器用収納ケース。
【請求項３】
身容器の上面を覆う殻状の蓋は全体を曲面で形成し、その一部に略水平面領域を形成してなる請求項１又は２記載の電気調理器用収納ケース。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】

本発明は電気なべやホットプレートといった電気調理器を、使用しないときに保管しておくためのケースに関する発明である。

【０００２】

【従来の技術】

従来、電気なべやホットプレートといった電気調理器を、購入後保管しておくためのケースはなかった。したがって、需要者はこれら電気調理器を購入した後は裸で保管する必要があり、電気調理器に埃がかかるのを防止するために、電気調理器を適当な袋に収容したり、購入時の包装箱に収容して保管しているのが実情である。このような実情に着目して、特開平１０－５９３５５号には、商品の包装に使用される緩衝材を購入後に商品のスタンドとして利用する思想が開示されている。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

電気調理器を裸でそのまま保管する場合は、埃をかぶって不潔であるとともに場所をとり、袋に収容して保管するにしても纏まりが悪く取り扱いが不便であった。購入時の包装箱に収容して保管する場合は、一々包装箱に収納する手間がかかり見栄えも悪い。また、特開平１０－５９３５５号に開示されている商品の包装用緩衝材をスタンドとして利用する方法では、電気調理器が埃をかぶるとともに見栄えも悪い欠点があり、一時的な保管としては有効であっても日常的な保管方法としては適さない。

【０００４】

上記従来技術の欠点に鑑み、本発明は使用後の電気調理器を手軽に収容して埃や汚れが付着しないように衛生的に保管することができるとともに、持ち運びなどに際して収納した電気調理器が妄動したり衝撃的にぶつかるのを防止し、安全に取り扱うことができる電気調理器用収納ケースを提供することを目的とするものである。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、合成樹脂材で殻状に形成した身容器１と蓋２とで構成した電気調理器用収納ケースにおいて、身容器１に電気調理器Ａを収納して蓋２をロックすることができるようにロック手段を設けるとともに、電気調理器Ａを収納するケースの一部に下げることができるように把手５を、一部に安定よく載置することができるように脚部を形成する。

【０００６】

身容器１は、電気調理器Ａを平面的に置く姿勢で収容する事ができる殻状に、蓋は電気調理器Ａの上面を覆う殻状にそれぞれ形成し、電気調理器を収納して蓋をロックした状態の外周の一部に把手５を、把手５の対向位置に脚部６を形成しておくことにより、電気調理器の収納や取り出しが容易である。また把手を持って下げるのに便利で、その下げた姿勢で置いたり、立てた姿勢で狭い隙間などに保管することができる。身容器は、電気調理器を平面的に置く姿勢で収納することができる殻状に形成し、その底面に突出する脚部９を形成し、この脚部９に電気調理器Ａの脚部Ｂが嵌まり込んで身容器と電気調理器の位置決めを行う。これにより、身容器１の内部において収納した電気調理器の位置決めを確実に行い、安定よく収納しておくことができる。

【０００７】

殻状の身容器１の内部にはリブ10を立設し、該リブ10に対して収容した電気調理器がリブの面方向に当接するようにする。これにより、リブ10の撓みによって衝撃が吸収され電気調理器を緩衝的に支持し、かつ身容器１内での妄動を防止し、収納した電気調理器を衝撃から保護することができる。また、面方向に収容した電気調理器に当接する可能性のあるリブを立設することによって、リブと身容器の間に電気調理器が露出しない空間が形成される。したがって、この空間はコードなどの小物類を収容する空間として活用することができる。さらに、蓋２は電気調理器を覆うべく曲面の殻状に形成し、その一部に略水平面領域を形成することによって、平面的に載置したケースの上に小物を置いたりすることができる。

【０００８】
【発明の実施の形態】
以下、本発明の電気調理器用収納ケースの実施の形態を添付の図面に基づいて説明する。図１は電気調理器を収納した状態の縦断面図、図２は電気調理器を収納して立てた状態の側面図、図３は蓋を開放した状態のケースの平面図である。
【０００９】
図示実施形態の収納ケースは上下二つ割りとし電気調理器Ａを平面的に置いた姿勢で収容することができる身容器１と蓋２とで構成し、身容器１及び蓋２はケースとして適度な強度を有する合成樹脂材で殻状に成型する。身容器１と蓋２は後端部のヒンジ３によって開閉自在に軸着し、開蓋した身容器１の内部に電気調理器Ａを自由に出し入れすることができるようにし、前端部に設けた係止具４によって閉蓋状態にロックできるようにする。身容器１と蓋２のロック手段は任意であるが、図示例のロック手段は身容器の係合部４ａと蓋２の係合部４ｂが係合する状態でスライダー４ｃを移動させ、係合部４ａと４ｂの係合状態を維持するようにしている。
【００１０】
収納ケースの前方には把手５を形成する。すなわち、身容器１の前方に身容器把手部５ａを蓋２の前方に蓋把手部５ｂを形成することによって、閉蓋状態において身容器把手部５ａと蓋把手部５ｂとが嵌合し把手５が形成されるようにしている。この態様の把手５では、把手５を握ったときに身容器１と蓋２の両方を握ることになるため、例えばケースを持って下げたときに不用意に開蓋する虞がないものとなる。すなわち、電気調理器Ａを収容したケースの外周の一部に把手５が形成される。このようにして形成された把手５の対向位置、すなわちヒンジ３がある収納ケースの後方には、身容器１及び蓋２のいずれにも外周の脚部６，６を形成する。これにより、図２に示すように、電気調理器Ａを収容した閉蓋状態でケースを立てて置くことができる。
【００１１】
身容器１と蓋２の外周縁部分は、把手部５を含め全周が凹凸嵌合するようにしている。すなわち、身容器の外周端面に形成した溝７に蓋２の突条８が全周に渡って嵌まり込み、密閉状態に閉蓋される。このように、殻状に形成した身容器１と蓋２の外周縁部分を全周にわたって嵌まり込ませると、全体として強度的に極めて丈夫なケースとなる。
【００１２】
殻状に形成する身容器１の底面の四箇所に、下方に突出する平面の脚部９，９を形成する。この平面の脚部９，９は、収納する電気調理器Ａの脚部と同じ位置関係に形成し、身容器１の内部で凹所となる脚部９，９に電気調理器Ａの脚部Ｂを嵌まり込ませる。これにより、身容器１内に収納した電気調理器Ａは、しっかりと位置決めされることになる。このように、図示実施形態のケースでは身容器１を平面的に置いた底面の脚部９と、外周の脚部６の両方に脚部を設けているため、例えば棚の上などに平面的な姿勢で置くことができるとともに、細い幅の隙間などに立てかけて電気調理器を保管することができる。
【００１３】
身容器１の内底面には、図面上四隅部分に壁状のリブ１０，１０を立設している。このリブ１０，１０は、収納する電気調理器Ａ本体の側面や側底面に当接もしくは接近する形状とし、収納する電気調理器Ａが妄動しようとしたときにリブ１０の面方向に当接して妄動が阻止されるようにしている。すなわち、電気調理器が妄動しようとしたときリブ１０の面方向に当接するため、リブ１０の弾性によって電気調理器が緩衝的に支受される。また蓋２の内面には、下方に向けて小さなリブ１１，１１を突出させている。この蓋２から突出するリブ１１は、収納した電気調理器Ａの上面の一部に当接もしくは接近し、電気調理器Ａの上方への妄動やガタツキを防止する。以上述べたリブ１０や１１は、常時収納した電気調理器Ａに当接している必要はなく、電気調理器Ａが妄動しようとしたときにその動きを阻止することができるようにしておくのが好ましい。
【００１４】
身容器１内にリブ１０を立設した場合、リブ１０の外方にリブ１０と身容器１の主体部に

囲まれた空間１２が形成される。そこで、この空間１２を電気調理器Ａに関する部品や附属品といった小物類の収容空間として利用すると便利である。リブ１０と身容器１の一部とで囲まれる空間１２を小物類の収容空間として利用するには、この空間がなるべく閉鎖された独立空間となることが好ましい。そのため、リブ１０は収納する電気調理器Ａに当接する部分の両端を外周方向に延長して区画された空間１２を形成し、例えば電気調理器の附属品として欠かせないコードの収容部などを形成することができる。図示していないが、空間１２の開放面に開閉自在の扉を設けたり、区画壁などによって収納した小物類を固定するようにすることもできる。

【００１５】

殻状に形成される身容器１及び蓋２の具体的な形状は、電気調理器Ａを収納することができる形状であればどのような形状であってもよい。しかしながら、なるべく電気調理器Ａの外観形状に近く、余分な空間を作らないほうが好ましく見栄えのよいものとなる。また、強度的にも全体に膨らむ丸みのある形状が有利である。ところが、丸みのある形状では、ケースの上に何かを置く場合に滑って不便である。そこで図示例では、ふっくらと膨らむ形状とした蓋表面の中央部の一定範囲を平面的に形成し、この平面領域１３に物を置いたりすることができるようにする。

【００１６】

ふっくらと膨らむ蓋の上面部分の一部に平面領域１３を形成する結果、平面部分と膨らみ部分との境界に段部（傾斜面）１４が形成される。この段部１４は全体的に膨らむ蓋の上面において補強部として機能し、蓋がより丈夫なものとなる。平面領域１３は必ずしも厳密な水平面である必要はなく物が滑り落ちない程度の平面であればよい。なお、図示実施形態では、蓋の平面領域１３の形状に対応させて身容器にも平面領域１５を形成している。身容器に平面領域１５を形成することによって身容器と蓋の外観が対称的に形成され見栄えがよくなるとともに、平面領域１５を形成することによって形成される段部（傾斜面）１６によって身容器の強度を向上させる実益がある。

【００１７】

なお、後端部においてヒンジ３によって開閉自在に軸支する身容器１と蓋２を着脱自在なヒンジ構造としておくと、ケースの蓋を洗浄する場合などに便利である。着脱自在なヒンジ構造としては、身容器１と蓋２のいずれか一方に設けた枢軸に対し、身容器１と蓋２のいずれか他方の軸受部が一定の角度の範囲でのみ嵌合する形状とし、例えば蓋を大きく開いた時に着脱可能となるようにすることができる。その他、着脱可能な軸受け構造は公知であり、任意公知の着脱可能な軸受け構造を本発明における身容器１と蓋２の軸支構造に応用することが可能である。

【００１８】

【発明の効果】

請求項１記載の本発明の電気調理器用収納ケースによれば、従来収納に困っていた電気調理器を収納し、台所などにおいて体裁良く保管することができ見栄えのよいものとなる。そして、持ち運びなどに際し収納した電気調理器がケース内で妄動したり衝撃的にぶつかるのを防止し、電気調理器やケースが破損することがないように安全に取り扱うことができる。このとき、内部に収容した電気調理器は、身容器と蓋で上下から挟み込むように安定よく収納され、ケースの把手を持って取り扱い、脚部を突出させてあることによって希望の場所に安定よく置くことができる。また、脚部を外周に形成しておけば電気調理器を収納したケースを立てかけて収納することができ、このような場合でもリブの存在によって収納した電気調理器に横方向からの衝撃的な荷重が掛かることなく安全収納することができる。

【００１９】

請求項２記載の発明によれば、ケース内部に収納した電気調理器が露出しない空間が形成され、これを小物類の収容空間として利用することによって紛失しやすい小物やコードを一つのケースにまとめて保管することができる。

【００２０】

請求項３記載の発明によれば、ケースを平面的に置いた場合に、その上にものを置いたときに滑らないようにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図１】電気調理器を収納した状態の本発明に係るケースの縦断面図、

【図２】電気調理器を収納して立てた状態の本発明に係るケースの側面図、

【図３】開蓋状態の本発明に係るケースの平面図、

【図４】本発明に係るケースの蓋のみの平面図、

【図５】本発明に係るケースの身容器のみの底面図、

【図６】本発明に係るケースの側面図、

【図７】本発明に係るケースの正面図、

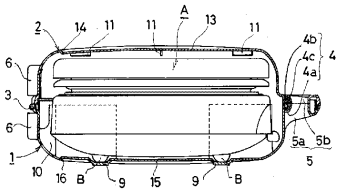
【図８】本発明に係るケースの背面図、

【図９】本発明に係るケースの縦断面図。

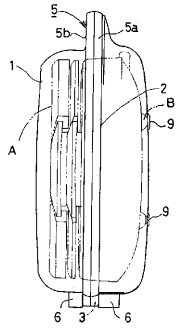
【符号の説明】

１…身容器、　２…蓋、　３…ヒンジ、　４…係止具、　５…把手、　５ａ…身容器の把手部、　５ｂ…蓋の把手部、　６，９…脚部、　７…溝、　８…突条、　１０，１１…リブ、　１２…空間、　１３，１５…平面領域、　１４，１６…段部、　Ａ…電気調理器、　Ｂ…脚部。

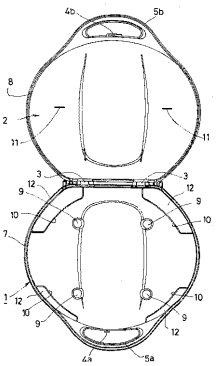
【図１】



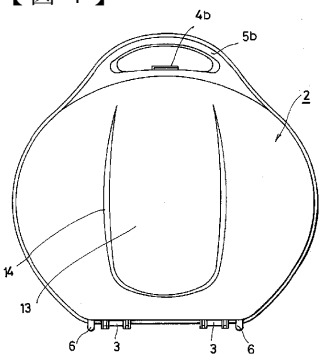
【図２】



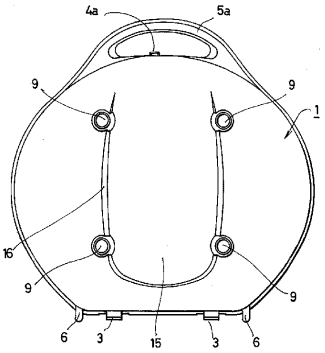
【図３】



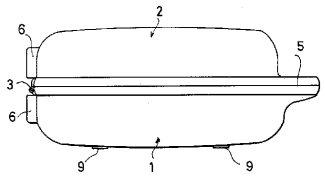
【図４】



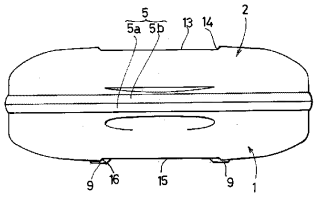
【図５】


4a
5a
9
9
1
16
9
9
6
3
15
3
6

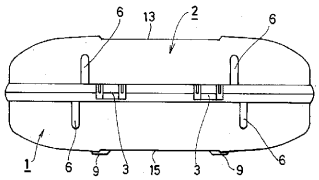
【図６】


2
6
5
3
6
9
1
9

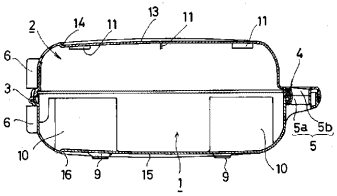
【図７】


5
5a
5b
13
14
2
9
16
15
9
1

【図８】


6
13
2
6
1
6
9
3
15
3
9
6

【図９】


2
14
11
13
11
11
4
6
3
6
5a
5b
5
10
16
9
15
1
9
10

フロントページの続き

(56)参考文献 実開平０５－０３９４２６（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６１－１９３０８８（ＪＰ，Ｕ）
実開昭６１－０５９５８７（ＪＰ，Ｕ）
実開平６－７３６０２（ＪＰ，Ｕ）
実開平５－３９４２６（ＪＰ，Ｕ）
特公平２－１３５６８（ＪＰ，Ｂ２）
実開昭４９－９９５６９（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.^{7}，ＤＢ名)

B65D
A47J
F24C
F47B